

問題 I

- | | | |
|---------------|---------------|------------------------|
| (1)(2) - 23 | (3)(4) - 10 | (5)(6) - 22 |
| (7)(8) - 24 | (9)(10) - 15 | (11)(12) - 45 |
| (13)(14) - 03 | (15)(16) - 02 | (17)(18) - 33 |
| (19)(20) - 51 | (21)(22) - 02 | (23)(24) - 02 または 04 |
| (25)(26) - 38 | (27)(28) - 07 | (29)(30) - 02 (または解なし) |
| (31)(32) - 01 | (33)(34) - 06 | (35)(36) - 03 |
| (37)(38) - 32 | (39)(40) - 13 | |

問題 II

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| (41)(42) - 37 | (43)(44) - 52 | (45)(46) - 38 |
| (47)(48) - 44 | (49)(50) - 24 | (51)(52) - 12 |
| (53)(54) - 30 | (55)(56) - 17 | (57)(58) - 03 |
| (59)(60) - 03 | (61)(62) - 04 | (63)(64) - 01 |
| (65)(66) - 03 | (67)(68) - 01 | (69)(70) - 08 |
| (71)(72) - 02 | (73)(74) - 40 | (75)(76) - 06 |
| (77)(78) - 04 | (79)(80) - 46 | |

問題 III

各国の通貨切り下げ競争やブロック経済による国際経済の混乱が第二次世界大戦の遠因となったこと、アメリカが世界最大の金保有国となったことなどを背景に、為替の安定と各国経済の発展を目指す戦後の通貨制度が、1944年にブレトン＝ウッズ協定で合意された。その内容は、アメリカのドルを金と交換可能な基軸通貨として、各国通貨とドルの交換比率を固定するもので、国際通貨基金と国際復興開発銀行が支えた。しかし、ベトナム戦争の戦費や西ドイツ・日本の経済成長などでアメリカの国際収支が悪化し、その金保有量が減少すると、1971年にアメリカは金とドルの交換停止を発表し、その後、主要国が変動相場制に移行して、この体制は終焉を迎えた。(300字)

問題 IV

安史の乱以降、内地にも配置された節度使が各地で自立を進め、唐滅亡後は武人政権が割拠したことを背景に、北宋は文治主義による君主独裁体制の確立を目指した。科挙の最終試験に皇帝が臨席する殿試を導入して皇帝と官僚の結びつきを強化し、また節度使の欠員を文人官僚で補充して実権を奪い、軍事力を皇帝直属の禁軍に集中させた。地方では、唐末五代の戦乱で門閥貴族が没落し、武人と結んでいた新興地主層が台頭したが、宋代に彼らが科挙を通じて官僚となることで、中央と地方の結びつきが強化された。しかし、文人官僚の重用は、人件費の増大と軍事力の低下を招き、キタイや西夏に対しては歳幣を贈って和平を維持したが、財政難が深刻化した。(300字)